【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
※地域・在宅看護概論Ⅰ	１（１５）	１	第１学期	岡島　優子

目　　標

１．生活者としての人を理解し、地域で生活する人々の健康状態と健康増進の取り組みについて理解する。
２．ライフテージ各期にある人々の暮らしの実際を理解する。
３．住み慣れた地域での暮らしと看護について理解する。

回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	１．生活者としての人の理解 １）個人生活と社会生活 ２）日常と日常生活 ３）ライフサイクル・ライフイベント	講義	
2	2	２．健康のとらえ方と国民の健康 １）健康とは・障害とは ２）国民の健康状態 ３）ライフサイクルと健康 ４）健康生活行動	講義	
3	1	５）国民の健康状態と地域における健康増進の取り組み ※住み慣れた地域を１つ選択し、グループで探求	講義・演習（グループワーク）	課題学習
4	2	地域における健康増進の取り組み（発表）	講義・演習（グループワーク）	グループワークでの学びレポート
5	2	３．　ライフステージ各期にある人々の暮らしとニーズ １）暮らしの場、暮らしと健康の関係 ２）地域における社会資源の活用やネットワーク ※地域で暮らす人々へのインタビュー計画	講義・演習（グループワーク）	
6	2	３）ライフステージ各期にある人々の暮らしの実際（フィールドワーク）	演習（グループワーク）	課題学習
7	2	ライフステージ各期にある人々の暮らしの実際（発表）	講義・演習（グループワーク）	グループワークでの学びレポート
8	1	４．住み慣れた地域での暮らしと看護 １）住み慣れた地域で豊かに、健やかに暮らすには	講義	
9	1	終講試験		

授業形態	講義および演習
評価方法 点数配分	筆記試験 60点、講義での提出物・課題レポート40点 他の事項については履修規程の第５条、第６条に定めるとおりとする
テキスト サブテキスト	基礎看護学（1）看護学概論　：　医学書院 地域・在宅看護論①　地域療養を支えるケア：　メディカ出版
その他	※この科目は実務経験のある教員による授業科目である

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
地域・在宅看護概論Ⅱ	１（１５）	２	第１学期	竹谷　千津代

目　　標
１．地域・在宅療養者及び家族について理解を深め、地域・在宅看護の特徴を学ぶ

回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	１．在宅看護の変遷と看護をめぐる社会背景の変化 １）在宅看護の歴史　　２）在宅看護の社会的背景	講義	
2	2	２．地域療養を支える看護と在宅看護の倫理と基本理念 １）権利擁護（アドボカシー）　　２）自己決定支援	講義	
3	2	３．在宅療養者と家族の支援 １）在宅看護の対象者　２）在宅療養の成立条件　３）家族への看護	講義	
4	2	４．地域保健医療福祉と在宅看護 １）地域保健医療福祉活動と在宅ケア（ケアマネージメントを含む） ２）地域包括ケアシステム	講義	
5	2	５．在宅ケアを支える社会資源と制度 １）社会資源の活用 ２）在宅療養と社会保障制度（健康保険・生活保護） ３）高齢者の在宅ケアを支える制度（介護保険制度、高齢者の自立支援・介護予防事業、高齢者の医療の確保に関する法律） ４）障害者の在宅ケアを支える社会資源と制度（障害者総合支援法）	講義	
6	2	６．超高齢化社会における高齢者の人権と高齢者保健 １）超高齢化社会 ２）高齢者の人権　①アクティブエイジング　②虐待予防 ３）高齢者保健　①健康長寿の要因　②多死社会における意思決定（アドバンスケアプランニング含む）	講義	
7	2	７．在宅看護における安全と健康危機管理 １）事故の予防　　２）安全管理 ３）災害対策・災害時の対応	講義	
8	1	終講試験		

授業形態	講義
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第５条、第６条に定めるとおりとする
テキスト	地域・在宅看護論（１）地域療養を支えるケア：メディカ出版
その他	

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
家族看護論	１（１５）	３	第１学期	中村　なぎさ

目　　標
地域・在宅で生活する家族を一つの単位として理解し、家族との援助関係の形成や支援について学ぶ。

回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	１．家族看護とは １）家族看護の特徴と理念　　２）家族看護の実践の場面	講義	
2	2	２．家族構造と機能 １）家族とは　２）家族構造　３）家族機能	講義	
3	2	３．現代の家族と課題	講義	
4	2	４．家族看護を支える理論	講義	
5	2	５．事例に基づく家族看護学の実践 １）患者家族の支援（家族会）	講義	
6	2	２）患者家族の支援（在宅への移行）	講義	
7	2	３）まとめ	講義 グループワーク	
8	1	終講試験		

授業形態	講義
評価方法 点数配分	筆記試験 60点、講義での提出物・課題レポート40点 他の事項については履修規程の第５条、第６条に定めるとおりとする
テキスト	家族看護学：医学書院
その他	

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
地域・在宅看護援助論Ⅰ	１（３０）	２	第２学期	①溜池　さおり ②竹田　史門 ③林　由子 ④中村　なぎさ

目　　標
１．継続看護における退院調整、退院支援における看護師の役割を理解する。 ２．訪問看護の看護過程の特徴を理解し、地域・在宅での日常生活援助技術や教育的な関わりについて学ぶ。

回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	１．生活の場に応じた看護の特徴と看護の役割 １）外来看護　２）訪問看護　３）入所施設での看護　４）通所施設での看護	講義	担当者① 15時間
2	2	２．地域で療養する人々の抱える問題（安全と危機管理） １）療養生活上の問題 ①転倒の防止　②窒息の防止　③熱傷の防止 ④閉じこもりの防止　⑤虐待の防止　⑥災害時の避難予防　⑦感染症の防止	講義	①
3	2	２）介護力・介護者の健康問題 ①家族介護者のアセスメント　　②家族関係の調節 ③介護方法の指導　④家族介護者の健康	講義	①
4	2	３．療養の場の移行に伴う看護の継続性 １）施設と在宅を結ぶ看護 ①退院支援と退院調整　②退院計画　③退院指導 ④施設と地域の連携システム	講義	①
5	2	２）施設内看護と在宅看護の機能の相違と特徴 ①場の違いによる看護機能の特徴　　②生活の場の選択条件	講義	①
6	2	４．地域包括ケアシステムにおける多職種連携 １）在宅ケアチームの意義　　２）多職種との連携・協働	講義	①
7	2	５．在宅看護での看護展開の特徴 １）アセスメントと評価の技術：患者・家族、家庭環境のアセスメント ２）病状の変化の予測	講義	①
8	2	６．訪問看護の展開 １）在宅の制度や社会資源 ①ニーズのアセスメント（ICF）　②社会資源の活用 ③介護保険を用いたサービス ・介護保険制度のしくみ、訪問型・通所型・施設 ・介護予防・日常生活支援事業 ④介護保険以外の制度によるサービス ・自治体・NPO　　・成年後見制度、障害者総合支援法	講義	担当者② 4時間
9	2	⑤サービスの調整マネジメント （在宅療養者の困難事例の検討：グループワークおよび発表）	演習	②
10	2	７．初回訪問の技術 １）観察技術　２）コミュニケーション技術　３）訪問時のマナー ４）教育（指導）技術、相談技術　５）訪問看護の記録	講義	担当者③ 8時間
11	2	訪問の実際：ロールプレイング（初回訪問の事例）	演習	③
12	2	８．在宅における援助技術（アセスメントと援助の実際） １）食・栄養のアセスメントと援助　　２）清潔のアセスメントと援助	講義	③
13	2	３）排泄のアセスメントと援助　　４）移動のアセスメントと援助 ５）服薬管理	講義	③
14	3	在宅における基本的生活行動援助①　摘便、入浴・シャワー浴	演習	担当者④ 3時間
15	1	終講試験		①

授業形態	講義および演習
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第５条、第６条に定めるとおりとする
テキスト サブテキスト	地域・在宅看護論（1）地域療養を支えるケア　：　メディカ出版 地域・在宅看護論（2）地域療養を支える技術　：　メディカ出版
その他	

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
地域・在宅看護援助論Ⅱ	１（１５）	２	第２学期	①西井　知代 ②村田　佳奈 ③畫間　梓

目　　標
１．地域・在宅で医療管理を必要とする対象と家族に必要な知識と技術を習得する。

回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	１．在宅における医療管理を必要とする人の看護 １）在宅中心静脈栄養法 ２）在宅経管栄養法（経鼻法・胃瘻法・腸瘻法）	講義	担当者① 7時間
2	2	３）在宅人工呼吸療法（HMV） ①洗浄・組み立て②酸素管理③マスクフィッティング ④吸引（家族への指導含む）	講義	①
3	2	４）ストーマ管理 ①ストーマの種類②合併症予防、生活指導③社会福祉制度	講義	担当者② 4時間
4	2	ストーマ管理の実際	演習	②
5	2	２．基本的生活行動援助：生活の場に沿った看護援助技術の工夫の実際 １）経管栄養の実際（経鼻胃管からの注入・固定・滴下調節・胃瘻の管理）	演習	①
6	2	２）在宅酸素の管理（在宅酸素療法）　＜在宅酸素業者による演習＞ ①在宅酸素の取り扱い②注意事項	演習	担当者③ 4時間
7	2	３．施設見学 １）地域で生活する人々の健康の維持・増進への支援活動の実際を学ぶ ２）福祉・介護機器、介護用品の実際	演習	③
8	1	終講試験		①

授業形態	講義および演習
評価方法 点数配分	筆記試験 75点　　レポート 25点 他の事項については履修規程の第５条、第６条に定めるとおりとする
テキスト	地域・在宅看護論（２）地域療養を支える技術　：　メディカ出版
その他	

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
地域・在宅看護過程演習	１（３０）	３	第１学期	①初田　里佳 ②山本　緑 ③磯邉　厚子

目　　標
１．地域・在宅で療養している人々と家族への看護の展開と援助方法について理解する

回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	１．在宅で療養する慢性疾患のある人への看護 １）ALSの在宅療養患者と家族の看護（在宅人工呼吸療法、NPPV）	講義	担当者① 10時間
2	2	・ケアプランの作成 ①症状観察・アセスメント②医療処置（人工呼吸器装着に関するケア等） ③家族アセスメント	演習	①
3	2	・ロールプレイング：ケアプランの実施	演習	①
4	2	・ロールプレイング：ケアプランの実施	演習	①
5	2	・ケアプランの評価	演習	①
6	2	２．在宅で療養する高齢者家族への看護 １）認知症のある高血圧患者と高齢家族の看護	講義 演習	担当者② 10時間
7	2	・グループワーク：アセスメント ①服薬管理　②生活状況（環境・食事・排泄・清潔の状況） ③家族の健康状態　④他サービスとの連携	演習	②
8	2	・グループワーク：　地域で活用できるサービスについて	演習	②
9	2	・グループワーク：訪問看護計画立案	演習	②
10	2	・グループワーク：発表	演習	②
11	2	３．在宅で療養する終末期を迎えた人への看護 １）在宅で終末期を送る患者と家族の看護 ①在宅ターミナルケアとは ②時期（訪問導入期・安定期・不安定期・死亡直前期・死亡後）に応じた訪問看護	講義	担当者③ 10時間
12	2	③家族看護 ・アドバンスケアプラン　意思決定支援（本人・家族も含める） ・デスエデュケーション ・グリーフケア	講義	③
13	2	④疼痛緩和・トータルペイン ⑤緩和ケアにおける看護師の役割	講義	③
14	2	・グループワーク（終末期にある療養者の看護）	演習	③
15	1	・まとめ	講義	③
16	1	終講試験		③

授業形態	講義および演習
評価方法 点数配分	筆記試験 100点 他の事項については履修規程の第５条、第６条に定めるとおりとする
テキスト サブテキスト	地域・在宅看護論（１）地域療養を支えるケア　：　メディカ出版 地域・在宅看護論（２）地域療養を支える技術　：　メディカ出版
その他	演習は、概論と基本技術での学習を統合させて具体的な事例のアセスメントから看護計画立案までを行う 個人ワークやグループワークを行う

【専門分野】

科目	単位（時間数）	年次	開講時期	担当者
多職種連携演習	１（３０）	３	第１・２学期	①芝田　信人 ②伊藤　浩一 ③今西　健二 ④弘中　孝佳 ⑤白神　幸太郎 ⑥林　浩成 ⑦土井　敏行 ⑧遠藤　真理

目　　標

１．多職種間でコミュニケーションを図り、対象者の目標達成、ケアの質向上に向けて考えることを通し、多職種の役割と責務について共有し学ぶ

回	時間	授業内容	授業方法	備考
1	2	１．地域の療養に関わる各職種の役割・地域での業務拡大・看護師に期待する役割 １）薬剤師	講義	担当者① 2時間
2	2	２）リハビリテーションに携わる職種（理学療法・作業療法・運動療法等）	講義	担当者② 2時間
3	2	３）栄養士	講義	担当者③ 2時間
4	2	４）ソーシャルワーカー（MSW）	講義	担当者④ 2時間
5	2	５）産業医	講義	担当者⑤ 2時間
6	2	６）社会福祉士（地域包括支援センター）	講義	担当者⑥ 2時間
7	2	２．事例をもとに地域で生活する人々の看護職の介入方法を考える	講義	担当者⑧ 10時間
8	2	事例把握　＜グループワーク＞	講義	⑧
9	2	事例検討　＜グループワーク＞	講義	⑧
10	2	事例検討　＜グループワーク＞	講義	⑧
11	2	３．事例をもとに地域で生活する人々の各職種の介入方法を考える ＜薬剤部の学生とグループワーク＞	講義 演習	担当者⑦ 8時間 (①⑧)
12	2	事例検討　＜薬剤部の学生とグループワーク＞	演習	⑦ (①⑧)
13	2	事例検討　＜薬剤部の学生とグループワーク＞	演習	⑦ (①⑧)
14	2	検討内容発表	演習	⑦ (①⑧)
15	1	まとめ	演習	⑧
16	1	終講試験		⑧

授業形態	講義・演習
評価方法 点数配分	講義での提出物・課題レポート、出席点100点 他の事項については履修規程の第５条、第６条に定めるとおりとする
テキスト	地域・在宅看護論（１）地域療養を支えるケア　：　メディカ出版 地域・在宅看護論（２）地域療養を支える技術　：　メディカ出版
その他	